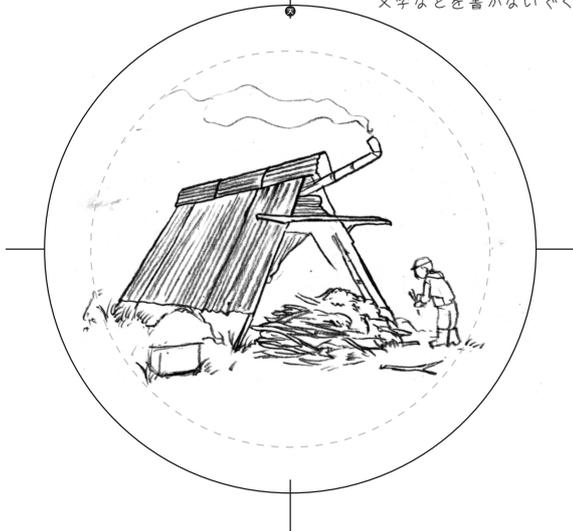


炭焼き小屋

※点線の内側がバッジの仕上がりサイズです。点線の外側には文字などを書かないでください。

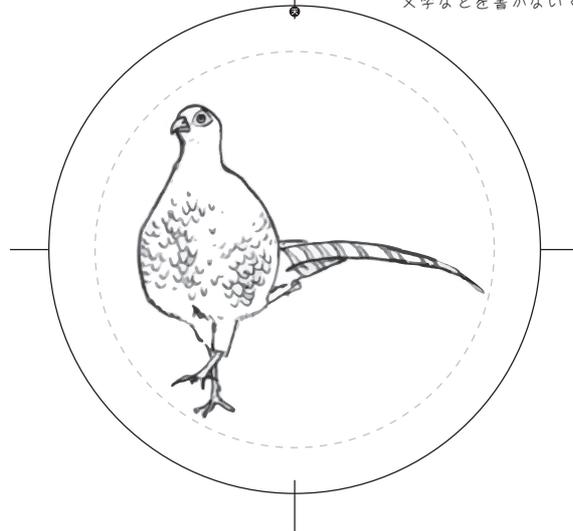


クヌギやコナラなどを、土で作った大きな釜（炭焼き釜）で蒸して炭化させたものを「木炭（もくたん）」といいます。木そのものである「薪（まき）」よりも火力が強く煙が少ないので、燃料として重宝されました。炭焼き釜に屋根を掛けたのが「炭焼き小屋」です。炭や薪の原料となる雑木林は薪炭林（しんたんりん）と呼ばれ、山の大切な資源でした。

なまえ

ヤマドリ

※点線の内側がバッジの仕上がりサイズです。点線の外側には文字などを書かないでください。

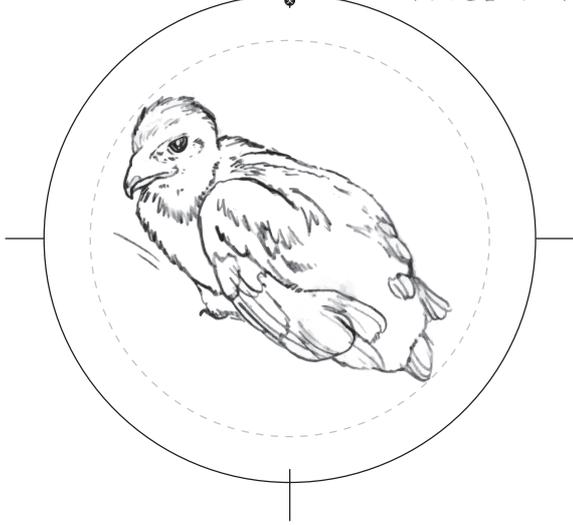


キジのなかまの野鳥ですが、里の草むらなどを好むキジと違って、山の林のなかで暮らしています。それも暗く繁った林ではなく、明るい雑木林が好みで、秋の紅葉の頃になると林道に出さず落葉をかき分け、ドングリや昆虫を食べ冬に備えている姿を見掛けます。イヌワシにとっては、ノウサギと並ぶ大切な獲物（えもの）のひとつです。

なまえ

イヌワシのヒナ

※点線の内側がバッジの仕上がりサイズです。点線の外側には文字などを書かないでください。

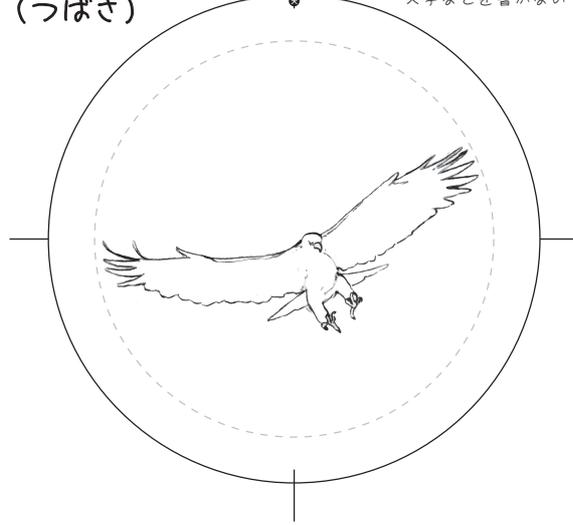


絵本の30ページに写真もありますが、このイラストは、1987年に宮城県の翁倉山で巣から落ちて保護されたイヌワシのヒナです。ケガと病気で弱っていましたが、仙台市八木山動物公園で治療を受け、回復しました。34歳となった今は「翁（おきな）」と呼ばれ、奥さんの「空（そら）」と一緒に岩手県の盛岡市動物公園で飼育されています。

なまえ

イヌワシの翼（つばさ）

※点線の内側がバッジの仕上がりサイズです。点線の外側には文字などを書かないでください。



イヌワシの翼は長く幅もあって実に立派です。同じく山に暮らす大型猛禽（もうきん）であるクマタカの場合、幅はあるものの短めのため、かなり太く見えます。これはイヌワシが本来的に草原の鳥、クマタカが森林の鳥であるためで、イヌワシが苦手な鬱蒼（うっそう）とした森も、クマタカは太く短い翼で器用に飛ぶことができます。

なまえ

▼切り取って、封筒にはりつけて使ってね。右がわには自分の住所を書いてね▼

〒986-0729

宮城県本吉郡南三陸町志津川天王前 205-12
南三陸ネイチャーセンター友の会事務局
イヌワシぬりえ缶バッジ係あて

〒

じゅうしよ

なまえ

